

館ヶ丘プロジェクト



活動の目的

本プロジェクトの目的は以下の4点である。

1. 多世代交流の促進

世代を超えた顔の見える関係を築くことで、地域の孤立を防ぐ。

2. 住民さんの生活の質の向上

日常の困りごとに学生の視点で寄り添い、住民さんの安心で豊かな暮らしを支える。

3. 地域課題の解決

高齢化への対応や団地内のアクセス支援など、具体的な地域課題に取り組む。

4. 学生の自己成長

活動を通じて社会的な「居場所」を見出し、実践的な「自信」を確立する。

活動の成果

1年間を通して個人活動を日常的に実施した。新入生が加入し、より活発な運営体制が整った。

また、春まつりでは例年よりも多くの参加者を呼ぶことができるなど、地域コミュニティへの積極的な介入を行った。

防災フェスティバルでは、独自に作成した防災マニュアルを用いたワークショップや担架体験等を行い、住民の防災意識向上を図った。秋祭りでは、ブース数を6つに拡大し、団地の賑わい創出に大きく貢献した。祭り内での団地タクシーでは、学生も運行に携わり、延べ58名の子どもたちを運送する等の具体的な成果を挙げた。

目標の達成度

全体として、目標を高い水準で達成している。

多世代交流については、団地内のイベントでは、参加者の増加やブース増設を通じて大規模な交流を実現した。**生活の質向上**と**地域課題の解決**においても、日常的な個人活動の実施や独自の防災マニュアルを作成・活用するなど、日常生活や防災の面で実効性の高い支援を展開した。

これらの活動を通じ、学生が組織運営や責任ある役割を経験したことで、大学以外のコミュニティで社会的な**居場所**と自分が人の役に立っているという**自信を確立**しており、自己成長の面でも大きな成果が得られている。

活動で見込める効果

• 孤立の解消

日常的な交流がセーフティネットとなり、高齢者や子育て世代の孤独・孤立を未然に防ぐ。

• 利便性の維持

団地タクシーやスマホ相談等の継続的な支援により、住民さんの日頃の困難を解消し、生活の質が維持される。

• 学生の成長

地域貢献の実践や住民さんとの会話を通じ、社会の役に立っているという自信やコミュニケーション能力を備えた人材が育つ。

今年度取り組んだ活動

- 4月 学生カフェ
- 5月 春まつり、新歓
- 6月 学生カフェ、キッチンさくら体験会
- 7月 納涼祭のお手伝い
- 8月 4プロジェクト合同イベント、学生カフェ、お弁当配布
- 9月 防災フェスティバル
- 10月 学生カフェ
- 11月 秋まつり、代替わり
- 12月 学生カフェ
- 1月 学生カフェ、お弁当配布
- 2月 学生カフェ
- 毎月子ども食堂、3プロ、日常的に個人活動を行う

行う予定の活動

- 3月 学生カフェ
- 4月 防災カフェ

今後の課題点

学業や他活動との兼ね合いにより、頻繁に参加できるメンバーと、なかなか活動に来られないメンバーとの間で二極化が進んでいる。特定のメンバーに負担が偏るのを防ぐとともに、多忙な学生でも無理なく関われる仕組みづくりが求められる。また、学生カフェや祭りといった全体活動に対し、キッチンさくらや団地タクシーなどの個人活動への継続的な参加が課題となっている。強制するのではなく、ボランティアの理念を尊重しつつ、いかに個々の学生が継続して活動に深く関わり続けられるかが重要である。



活動の目的

・空き店舗を利用した店舗運営
館ヶ丘商店街にある空き店舗を利用し、カフェの運営をすることで商店街に活気を与える。

・若者の居場所作り
若者が集まるコミュニティを作ること
館ヶ丘団地に活気を与える。

・学生の活動拠点
学生が常に団地にいる状況を作ること
団地の生活に溶け込む。

活動で見込める効果

・多世代交流の促進
学生が介入することで、イベントによる一時的な多世代交流だけでなく継続的な関わりを持ち続けられる。

・商店街の活性化
シャッター街となっている商店街に店舗を開けることで、昔のような活気をもたらす。

若者が常にいる場所があることが新たなチャンスやきっかけを生む

今年度取り組んだ活動

「空き店舗利用に向けた取り組み」
・独立行政法人都市再生機構(UR都市機構)との打ち合わせ。
・公営財団法人キリン福祉財団との連携
・集会所と空き店舗を利用した臨時のカフェ運営
・NPO法人「やまぼうし」との打ち合わせ

「若者の居場所作りに向けた取り組み」

・館ヶ丘小中学校への呼びかけ
・翔陽高校への外部講師
・ワークショップを並行して運営

活動の成果

「空き店舗利用に向けた取り組み」
・臨時のカフェの定期開催を継続
1, 2ヶ月に1回のペースでの開催
・NPO法人「やまぼうし」とのコンタクト

「若者の居場所作りのに向けた取り組み」
・翔陽高校にて授業
・翔陽高校の生徒と館ヶ丘団地で活動

「その他」
・金曜1限に毎週対面でミーティング
・プロジェクトとしての歴史を振り返り現状を把握する

目標の達成度

「継続的な空き店舗利用」
・秋学期は臨時カフェの運営回数は減少
・NPOに協力を仰ぐことによって継続的な運営を目指す

自分たちの現状を整理し、今何が必要で何が足りていないのかを把握出来た。

今後の課題点

「様々なNPO法人への継続的な打診」
・現状としては「やまぼうし」とのコンタクトのみである
・様々なNPOと接触を取り、協力してもらう事の出来る団体を探す

「館ヶ丘団地の調査」
・館ヶ丘団地にいる若者の調査
・この若者が館ヶ丘団地に感じていることを把握する。



若葉台プロジェクト



活動の目的

若葉台住宅は、相模原市郊外のベッドタウンとして、高齢化と次世代への継承の困難による空き家化の課題を持つ。また、地域イベントでは、参加世代が固定化し、世代間交流が活発ではない状況にある。若葉台プロジェクトは学生ならではの発想力と行動力を活かし、「若葉台ふるさと計画」の一環として子どもを対象にした企画や多世代が参加できる企画を実施し、希薄になっている世代間交流の活性化を目的としている。学生が高齢者・現役世代・子どもを繋ぐ架け橋となり、世代を超えた交流を促進することで、持続可能なコミュニティ形成を目指している。

活動で見込める効果

①多世代交流の促進

入居第一世代や現役世代、そして子ども世代を対象にイベントなどを開催することで、世代間のつながりを創出できる。学生が媒介することで、交流の機会を広げ、多世代交流活性化の架け橋としての役割を果たすことが出来る。

②地域課題の解決

若葉台の地域課題解決案の一つとして掲げる、若葉台住宅に住み続けたいと思えるようなまちづくりを目指す「若葉台ふるさと計画」によって、新たな地域活動の担い手の発掘に貢献できる。

今年度取り組んだ活動

- 4月 自治会総会参加
- 5月 城山モルック大会 運営補助
- 7月 納涼祭 出店・運営補助
相模原市長とのランチ会
- 8月 城山夏祭り 運営補助
- 9月 『若葉台遊びフェスタ2025』開催
- 11月 芋煮会 運営補助
城山モルック大会 運営補助
- 12月 『現役世代交流会』開催
- 2月 『若葉台遊びフェスタ2026春』開催

【通年】

- コミュニティカフェYYわかば 運営補助
- ワーキンググループ会議への参加

活動の成果

納涼祭での出店やコミュニティカフェの運営補助を通して若葉台プロジェクトの活動はより広く認知されるようになった。9月には初の子どもを対象としたイベント『若葉台遊びフェスタ2025』を実施し、子ども18人、保護者10人の参加者を集めることに成功した。12月には『現役世代交流会』を行い、これまで関りの少なかった世代と意見交換を行うことが出来た。2月にはそれらの三世代をつなぐことを目的とし『若葉台遊びフェスタ2026春』を実施した。これらの活動を通して新たな参加者との交流を生み出すとともに、イベントの周知などに協力してもらえるネットワークの拡大など、さらなる多世代交流の実現に向けた基盤をつくることができた。

目標の達成度

本年度は、子どもや高齢者に加えて、子どもたちの親世代とも交流が生まれ、昨年度を上回る多世代交流の場を創出することができた。また、昨年度から継続して地域課題を協議するワーキンググループに参加することで、若葉台が抱える課題をより具体的に理解し、地域との関係性を一層深めることができた。以上より、設定した目標は概ね達成されたといえるが、企画内容や広報の方法などに少し課題が残った。

今後の課題点

①イベント広報の方法

効果的な集客を実現する広報の方法の確立が課題。YYわかばでの口コミや自治会協力の回覧以外でSNS活用を含めた発信方法の工夫が必要である。

②企画内容の工夫

子どもから高齢者までが参加しやすい企画づくりが課題。多世代のニーズを的確に把握し、意見を取り入れながら企画を改善することが必要である。

③地域課題に対する向き合い方

具体的な課題解決と交流促進の二軸のバランスを取りながら、学生の強みを活かした課題解決方法を探る。



活動の目的

UR都市機構グリーンヒル寺田団地を活動拠点とし、近年課題となっている地域内のつながりの希薄化に対して、学生という利害関係を持たない立場を活かしながら、子どもから高齢者までが自然に交流できる場をつくることで、人と人との直接的な関わりが生まれる地域づくりを目指して活動している。

活動で見込める効果

子どもから高齢者までが同じ空間で時間を共有し、世代を超えた交流が生まれる。

学生と地域住民の心理的距離が縮まり、「顔の見える関係性」が築かれる。

地域住民の参加意欲が高まり、継続的なコミュニティ形成につながる。

今年度取り組んだ活動

お楽しみDAY
スマホお悩み相談会

5月 | 学生天国

6月 | 七夕飾りつけ

7月 | お茶会 (佐野川コラボ)
流しそうめん

10月 | 多摩祭 (馬広場コラボ)

11月 | 幼稚園生招待

12月 | クリスマス会運営補助
イルミネーション飾り付け

活動の成果

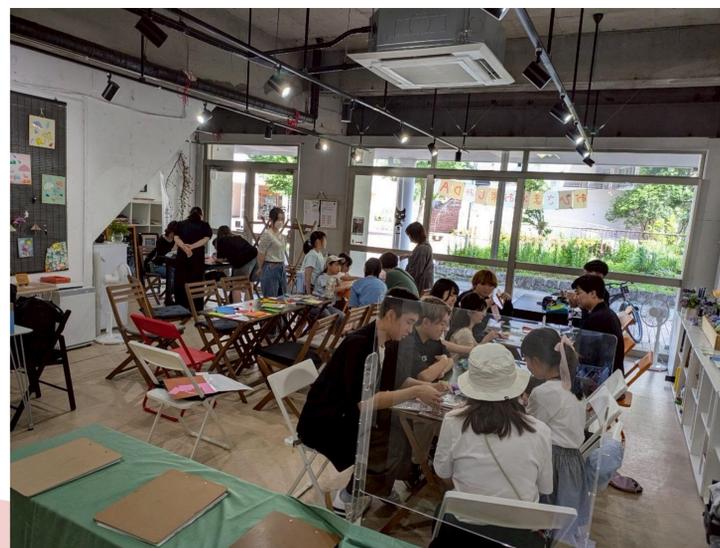
「地域と学生の継続的な関係づくり」という目標については、複数の季節行事・コラボ企画を通して一定程度達成できた。一方で、参加学生や参加者層の広がりには引き続き課題が残った。

目標の達成度

季節行事や大学招待企画を通じて、多世代交流の機会を継続的に創出
自治会・UR・他プロジェクトとの連携が進み、協力体制が増加
団地内外の住民に@団地の活動を認知してもらう機会が増加

今後の課題点

参加学生が固定しやすい点



わくわくほうせい！



活動の目的

私たちは多摩キャンパスの施設と地域の自然を活用しながら、多摩キャンパス付近の地域の社会課題を発見し、解決を模索することを目的としています。

具体的な社会課題の一例として以前から取り組み続けている多摩に理科を広める活動、高齢者が多い地域での移動手段の解決などに取り組んでいます。

活動で見込める効果

活動に大学の設備や自然を利用することによって、多摩キャンパスの魅力や信頼を築くのと同時に、社会課題の解決に助力することができると考えています。また、児童向けの実験イベントなどで将来、理科を学びたい、多摩キャンパスで学びたいなどの動機付けを与えることができると考えています。

今年度取り組んだ活動

5月

・福生環境フェスティバルに化学実験ショー出演者として依頼を受けて実施

8月

・高低差のある地域での電動モビリティの運転性能の確認を実際の林道（桐生）にて実施&他フィールドワークを実施

・めじろ台団地にて、夏休みを迎えた小学生の自由研究をサポートする理科実験教室を依頼され、実行した。今まで参加がなかった小学生高学年を新たなターゲットにして活動

11月

・クローバー幼稚園の児童を多摩キャンパスの実験棟に招待し、体験型の実験教室・ショーを実施した。

1月

・あいはら幼稚園にて上記と同じく実験教室・ショーを実施した。

活動の成果

福生環境フェスティバルとクローバー幼稚園、相原幼稚園では参加した児童が「面白かった、楽しかった」など実験を楽しむことが出来た。また、電動モビリティは運転経験がなくとも林道を通れるほどの走行性能と手軽さが実証された。まためじろ台では今まで全く参加がなかった小学生高学年の参加に成功し、後日その小学校の総合の授業にて小学生同士で実験含むイベントを実施した。

目標の達成度

幼稚園へのイベントで多摩キャンパスの設備と自然を伝え、電動モビリティを高齢者の移動手段に活用する可能性、そしてめじろ台の小学生が自主的にわくわくほうせい！の活動に影響を受けて、地域活動の勉強を行うなどの実績から、目標を達成できたと考えている。

今後の課題点

今年度の始めの頃に発生した引継ぎが未完成であるが故のミスコミュニケーションが起こらない様、何年も継続できる団体となるようノウハウや実験を残すこと、また幅広い学生がわくわくほうせい！に参加し、活動の幅や発想を増やすべく、SNSなどで広報を行うことが課題であると考えている。



活動の目的

法政馬広場は、地域の子どもたちへ馬と触れ合う機会を提供し、子どもに新鮮な学びを提供したり、豊かな情緒の形成を支援したりすることを目的に発足した。併せて、活動を通じて人と馬がどちらもウェルビーイングを向上させられることをプロジェクトの理念としている。

当プロジェクトでは、「言葉のいらないふれあい」をキャッチコピーに、地域の子どもたちを対象とした定期的な馬とのふれあい企画を開催することを目指している。企画では子どもたちに新鮮な体験活動を与えるだけでなく、経験を培い人間関係を豊かにするなど子どもたちの精神的な成長に関与することを目標としている。

活動で見込める効果

法政馬広場での活動を通じて、子どもたち、地域社会、馬を取り巻く環境にポジティブな影響を与えられると考えている。まず、子どもたちは普段経験することの少ない馬との触れ合いを通じて新たな興味・関心を育むことができ、地域の小学校や学童の子どもたちを大学に招いて交流することで、大学と地域社会とのつながりを高めることが期待できる。そして、既存の乗馬クラブなどの枠組みにとらわれない活動を展開することで、馬が活躍する場がさらに広がることを見込まれるさらに、「人馬のウェルビーイング研究所」との連携を深め、活動やその評価に学術的な視点を取り入れていくことを目指している。

今年度取り組んだ活動

【ユニフォーム・ステッカーづくり】

法政馬広場のオリジナルユニフォームを制作した。ふれあい企画の際に着用し、スタッフとしての識別性を高め、チームとしての一体感が生まれた。また、企画に参加した子どもに配布する馬のステッカーを作成した。子どもの楽しみになり、より身近に感じてもらうことができる。

【ポニー研修】

6月からは、馬術部で飼育されているポニーの水洗いや蹄の手入れ、散歩の仕方、馬房の掃除などを学んだ。研修を通して、馬との関わり方を知り、信頼関係を築くことができた。

【ふれあい企画】

10月に「@団地」と連携し、学童の児童を対象にしたふれあい企画を実施した。馬場での馬とのふれあいだけでなく、一緒に多摩祭に参加し、子どもたちのより高い満足度が得られた。この経験は、今後の活動に活かすことができる。また、11、12月には3回の継続的なふれあい企画を実施した。これまでの企画で連携してきた多摩キャンパス近郊の小学校や学童から参加者を募集した。えさやりや毛の手入れだけでなく、最終日には乗馬体験を行い、馬との関わりを深めてもらうことができた。

活動の成果

今年度は、ユニフォーム・ステッカーづくりやポニー研修を行い、活動の基盤を整えることができた。ユニフォームを着用することが活動時の一体感をうみ、研修実施により馬の扱い方などメンバーのスキルが向上した。

10月の連携企画や、12月の連続ふれあい企画を実施し、馬のえさやり、ブラッシングなど具体的な活動の経験を積み、さらに連携先との関係づくりができた。一時的なものでなく、継続的な活動の基盤を整えることができた。

目標の達成度

ふれあい企画では、子どもたちが笑顔で馬に触れたり、積極的に質問したりする姿が見られ、楽しんでもらえた手応えを感じた。最初は馬を怖がっていた子どもも、活動を通じて徐々に距離を縮め、最後には自分から触れるようになるなど、子どもたちが楽しみながら新しい経験を得られる場となった。

一方で、人と馬双方のウェルビーイング向上を理念としているが、今年度は子どもたちへの活動提供と組織基盤の整備に注力したため、馬のウェルビーイングに関する取り組みは十分とは言えなかった。

今後の課題点

馬のウェルビーイングについては、ポニー研修などを行ったものの、馬にとってのストレス軽減や心身の豊かさを高める取り組みまでは至らなかった。次年度以降の重要課題として認識している。

また、研修の方法をポニー公園で行うものから馬術部の敷地を利用したものに変更したものの、想定通りに運営できず、前年度のような全員参加の必須研修ではなく任意参加の形となってしまった。研修方法を変更する際に、それに伴う運営体制の見直しや、予算の他用途への再配分を事前に検討すべきだった。結果として当初計画していた研修の質を十分に確保できなかった点は、次年度への重要な改善課題である。



藤野やまなみプロジェクト



活動の目的

藤野やまなみプロジェクトは、やまなみ公園の整備や芝桜の植樹等の活動を通じて、豊かな自然と美しい景観を保全し、将来にわたって地域の方々に親しまれる公園を維持することを目的としています。

活動で見込める効果

本プロジェクトを通じて、藤野の豊かな自然環境が保全されるほか、地域の方々と学生が協力して公園の整備を行うことで、大学と地域のつながりが深まり、世代を超えた交流が生まれることが期待されます。また、活動を通して公園の愛着が高まることから、地域により親しまれる公園づくりに繋がることが見込まれます。

今年度取り組んだ活動

- 4月：新歓・芝桜の植樹
- 5月：公園整備・峰山整備（お祭り）
- 6月 7月：公園整備
- 8月：公園整備・たまぼら4PJ合同イベント
- 9月：公園整備
- 10月：公園整備・藤野ふる里祭り
- 11月：公園整備・
安川さん講演会@やまなみ温泉
- 12月：安川さん講演会@館ヶ丘団地
- 2月：広報誌作成

今年度は通常活動に加えて、たまぼら4PJ合同イベントや、藤野ふる里まつりへの参加、館ヶ丘団地での安川さんの講演会開催など、多くのプロジェクトとのコラボレーションが実現しました。他のプロジェクトとの繋がりが生まれたことで、昨年度よりも活動の幅が広がった一年となりました。

活動の成果

今年度も芝桜の植樹や定期的な公園の整備を継続的に行い、春には芝桜、夏にはアナベルが咲き誇る景観を実現しました。これにより、地域の方々に親しまれる公園づくりに貢献することができました。

また、これまでSICの学生カフェで実施していた安川さんの講演会を、やまなみ温泉および館ヶ丘団地で開催したことで、学生に加えて地域住民の方々にも環境について考える機会を広げることができました。

目標の達成度

今年度は、年間を通して通常活動への参加人数が安定しており、昨年度よりも活発に活動ができました。継続的な参加体制を維持できたことから、活動の基盤づくりという目標は達成できたといえます。また、藤野ふる里まつりへの参加を通して、創生会の方々との協働や地域住民との交流を深めることができ、藤野地域の魅力を再発見する機会となりました。学生と地域のつながりを強化するという点においても、目標は達成できたと考えられます。

今後の課題点

今年度は、幹部内での情報共有に偏り、全体への伝達が十分でない場面がありました。今後は、定期的なミーティングやグループLINEの活用を通して組織としての連携を強化していきたいです。

また、プロジェクトを継続のために新規メンバーの確保が課題です。新歓やSNSを活用し、本プロジェクトの魅力を積極的に発信していきます。



ゆうやけプロジェクト



活動の目的

ゆうやけプロジェクトは、町田市相原地区において、放課後支援や季節ごとのイベントを通して、小学生を中心とする子どもたちと交流を行っています。

ゆうやけプロジェクトでは、子どもたちの生活の充実を目的としています。目的達成のため、放課後の学童である「ゆくとも」という活動に参加したり、休日に「りびんぐ」というイベントを開催して、子どもや地域の方々との交流を行ったりしています。

活動で見込める効果

フィールドが抱える課題として、子どもの居場所の不足と、地域コミュニティの希薄化が挙げられます。

ゆくともやりびんぐといった活動を通し、子どもや地域スタッフの方々と継続的に関わっていくことで、子どもたちの居場所づくりに取り組んでいます。

また、子ども会や子どもセンターといった大戸小学校以外の方々に関わる活動も行い、交流を深めることで、地域コミュニティの希薄化の改善を目指しています。

今年度取り組んだ活動

5月 りびんぐ（調理）

6月 しゅわしゅわパーティー参加

8月 りびんぐ（4プロジェクト合同）

9月 ハロウィンイベント参加

12月 りびんぐ（工作）

ふれあい企画参加

2月にもりびんぐの開催を予定していましたが、積雪により3月へ延期となりました。

「しゅわしゅわパーティー」は、ちゅらたまさん主催のイベントで、子どもたちと手話を学んだり、手話で遊んだりする活動です。

ハロウィンイベントは、丸山子ども会さん主催のイベントで、子どもたちと町内を歩き、地域の方々との交流する活動でした。

ふれあい企画では、法政馬広場さんのお手伝いを行いました。

その他、平日は放課後支援であるゆくとも活動も行っています。

活動の成果

本年度は、昨年度と比較して、りびんぐへの子どもの参加希望者数を増やすことができました。この理由として、8月に実施した4プロジェクト合同企画の開催があると考えられます。この企画では、たまぼらの他のプロジェクトの方々とともに開催したことで、規模の大きいイベントを実施することができました。これにより、12月や2月のりびんぐにおいても、継続的な参加希望に繋がったのではないかと考えています。

目標の達成度

子どもの生活の充実という目標達成のため、りびんぐの企画内容の多様化や、振り返りの反映を行いました。企画の種類が連続することがないよう心掛けたり、各回の振り返りを次回企画へ反映させるように改めて意識したりしたことで、さまざまな体験機会を提供することができ、目標達成に近づいたと考えています。

今後の課題点

大学生の人数の確保が課題です。本年度のりびんぐでは、小学生の参加希望者が増加した一方で、大学生の人数は例年同様年度末にかけて減少傾向にあります。その結果、参加者を絞るために抽選を行うこともありました。また、イベント参加のお声かけをいただいた際にも、参加できる人数が集まらず、参加を見送らせていただくことがありました。

来年度は、継続的な活動について模索し、活動に参加することのできる大学生の定着を目指していきたいと考えています。



活動の目的

本活動の目的は、水路を活用して地域住民や学生が地域とのつながりを持つことでその地域に対して愛着を醸成していくことである。

また、本活動を通じて、①水路周辺の環境保全
②伝統文化の継承、③遊休資産の活用、
④多世代や地域住民の交流機会の減少の解消等にも今後取り組んでいく。

活動の成果

- ・地域の方々との信頼関係の構築
- ・メンバーの活動フィールドへの愛着
- ・地域活動に興味のある学生・関係人口の創出

活動で見込める効果

- ・地域住民のUターンの促進
- ・地域住民の交流の促進
- ・まちづくりや地域活動に興味のある学生の創出
- ・八王子周辺地域の関係人口の創出
- ・新たな観光資源の創出

目標の達成度

60%

- ・地域のイベントへ参加やボランティアを通じて地域住民と信頼関係を築くことができた(7回以上)
- ・年内に自分たちでイベントを2回ほど実施する目標は達成することができなかった

今後の課題点

- ①SNS（インスタグラム）での情報発信
- ②サークル内の仕組みの構築（定例会、交通費フォーム、）
- ③今後の活動予定をより綿密に組むこと
- ④メンバーそれぞれの役割を明確にする
- ⑤水路を活用したイベントの実施

今年度取り組んだ活動

2025

5月-活動の開始

6月-活用する水路の視察

7月-水路の草刈りと水路の調査

9月-水路の清掃活動、こども食堂ボランティア

10月-川の生態調査・草刈り、北条氏照祭りへの参加
カワラノギクお花見会へ参加

11月-こども食堂ボランティア、防災訓練への参加

12月-こども食堂ボランティア、もちつきイベントへの参加

1月- 活動なし

2月- 活動なし



ボランティアスタッフ



活動の目的

- ①地域の人々の防災意識を高めること
→防災は決して特別なものではなく、日常的に意識する必要があるものだと伝える
- ②子どもから大人まで幅広い世代に興味を持ってもらう
→子連れ参加が多く、小さいころから防災に触れる機会を作る

活動で見込める効果

- ①防災意識の普及
→イベントや体験を通して“知る”きっかけをつくる
- ②行動への第一歩につなげる
→体験後に「備え始めようかな」と思ってもらおう
- ③継続的な関心の獲得
→参加してくれた人に防災を身近に感じてもらい、今後も関心を持ち続けてもらう

今年度取り組んだ活動

5月：学生天国
・防災カードゲーム（ナマズの学校）

8月：JR八王子駅とのコラボ
・駅利用者向け防災啓発

9月：竹カフェ

11月：まちカフェ
・防災ゲーム×ボール投げ

12月：防災フェスタ
・防災カードゲーム（ナマズの学校）

3月：竹カフェ
・パラリンピックスポーツ「ボッチャ」を通じた交流企画

活動の成果

- ①年間を通じた地域イベントへの参加
→継続的に地域と関わることで、防災を身近なものとして発信できた
- ②他プロジェクトとの協力
→新しい視点やアイデアをえることができ、活動の幅が広がった

目標の達成度

- ①防災意識を高めるという目標は一定程度達成
→子供連れの参加が多く、早い段階で防災に触れてもらった
→体験型企画により印象に残りやすかった
- ②より専門性の高い知識の獲得できた
→防災士資格取得

今後の課題点

- ①団体名・活動内容のわかりにくさ
→名称変更をして、より伝わりやすい団体へ
- ②明確なテーマ設定
→「食×防災」など軸を定める
- ③地域との関係強化
→相原地区の方々との交流が深まり、顔の見える関係づくりに励む
- ④継続的な関心の維持
→一度きりでは終わらせない



活動の目的

「私たちTeam Fashionは、「多摩キャンパスで自己表現する場を作りたい」、「ただ単位を取るだけの大学生は嫌だ」そんなモヤモヤを持ったメンバーが集まり、2022年に設立されたチームです。「ファッションを楽しみ、自己表現する場を」をキャッチコピーに法政大学多摩キャンパスや多摩地域に自由にファッションを楽しみ、自己表現できる環境を作る活動をしています。私たちは、現在、一年生8人、二年生7人、三年生3人、四年生2人の計20人で活動しています。今までの活動を通じて生まれた緑が広がり、現在では多摩キャンパスだけにとどまらず、東京都八王子めじろ台地域でも行っています。

活動で見込める効果

「地域・年齢を超えてファッションで繋がる」ことが主な効果です。

七夕イベントやハロウィンイベントでは、イベントに合わせたゲームや物販、さらに仮装をし、めじろ台の子供や地域の方々と交流することができます。

11月に行われた多摩祭では、ヘナタトゥーやハンドメイドを行い、多摩キャンパスの生徒だけでなく、他大学の学生や様々な方々と交流できます。

ファッションショーでは、自分たちが古着から作った衣装を通じて、ランウェイを歩いてくれる地元の方と交流することができます。

このようにファッションを通じて様々な人と繋がるのが私たちの活動で見込める効果です。

今年度取り組んだ活動

2025年度は「地域・年齢を超えてファッションで繋がる」をテーマとした多くのイベントを開催しました。

4月に新入生歓迎イベントに行い、夏頃は、多摩キャンパス主催の多摩夏、めじろ台の七夕イベントなどを行いました。

秋頃は、「リンカンスナップ」さんとコラボし多摩キャンパスでストリートスナップの撮影を行い、インスタのフォロワーを300人以上獲得しました。他にも多摩祭や館ヶ丘プロジェクトさん主催の防災フェスティバルにも出店しました。

また、引き続きめじろ台にてハロウィンイベントを開催し、子どもたちが楽しめるイベントを行いました。

冬頃には、活動の集大成である「ファッションショー」を開催しました。「八王子クールセンター」さんからいただいた古着をアレンジし、その衣装を着た学生や地域の方がモデルとしてランウェイを歩きました。そしてファッションショーをクールセンターさんでも行いました。

活動の成果

9月のスナップ撮影を行い、フォロワーを増やすことで私たちの活動が多くの人目に入るようになり、多摩祭でもたくさんのお客さんが来てくださり、様々な交流が行えました。

11月のファッションショーでは、佐野川プロジェクトさんの「佐野川茶」の販売や、他チームの方々がイベントを盛り上げるために協力してくれました。協力のもと、地域・年齢を問わず、50人以上の観客を集めることができました。

以上の成果から本年度のテーマを実現できました。

目標の達成度

今年度は、地域交流をたくさん行い、地域を超えた活動ができたと思います。

さらに、SNS活動を行うことで、たくさんの方が見てくれTeam Fashionの知名度が向上されました。

多摩キャンパスの活動地域だけでなく、他地域やSNS上で活動することができ目標達成できました。

今後の課題点

毎回のミーティングやイベントの参加率が低いいため準備やイベント当日に人員が足りず、一部のメンバーに仕事が集中してしまうことが課題点です。そのため、来年度はメンバー全員が参加しやすいミーティング日時に調整する。さらに、イベントの事前にメンバーそれぞれの役割を決め、仕事を配分することを目標にし改善していきます。





活動の目的

今年度の活動は、コロナ禍を経て顕著となった「学生の孤食化」と「栄養の偏り」の改善を目的として実施した。

また、「多摩キャンパスならではの魅力」を発見・発信することを目指し、町田市や相模原市の食材を使用するとともに、八王子を拠点とする団体との提携企画を実施した。これらを通して、学生が多摩地域の魅力に触れ、関心を深める機会を作り、学生と多摩地域の双方を豊かにすることを目標とした。

活動で見込める効果

本活動を通じて、「学生の孤食」や「栄養の偏り」といった課題の改善が期待される。

キャンパス内における「食」に関する交流機会や、栄養バランスの良い食事を提供する場を増やすことで、孤食化の改善に加え、学生一人ひとりの健康的な食生活への意識向上が見込まれる。

さらに、多摩地域の食材を活用することで、新鮮な地元食材を味わう機会を作るとともに、地域住民の方々との交流を通して、都市部のキャンパスでは得られない「多摩キャンパスならではの魅力」を再確認する機会となることが期待される。

今年度取り組んだ活動

今年度の活動では、例年多摩キャンパスで開催されている「多摩夏祭り」や「多摩祭」への参加だけでなく、Ethical独自のイベントも企画・開催した。

多摩キャンパス内の「スローワールドカフェ」さんや町田市農業協同組合「アグリハウスさかい」さんの協力のもと、12/10から12/13の4日間で100円で朝食を提供する

「100円モーニング」を開催した。その前週には、「たまぼら佐野川プロジェクト」との共同で、企画の広報活動として抹茶ラテを販売した。

また、「BASEL洋菓子店」さんの協力を得て、地元の野菜を使用したオリジナルベーグルをキャンパス内で販売した。

さらに、EthicalのInstagram公式アカウントでの投稿および食堂でのポスター掲載を通じて実施した「ベストワングルメ」では、めじろ台駅・西八王子駅・相原駅周辺の飲食店を訪問し、大学周辺地域の魅力を再発見する活動に取り組んだ。

活動の成果

「100円モーニング」やベーグルの販売などの学内での食事企画では、学生に栄養バランスの取れた食事を提供し、地域への関心を促進する効果があった。学内で実施することで学生の孤食を解消し、新たな交流機会を作るといった効果もあっただろう。また、企画を通じて各団体の学内での知名度を向上させられた。

さまざまな団体と共同でイベントを実施することで地域交流やSIC内のつながりも強化することができただろう。

目標の達成度

本活動では、学生の孤食化の改善および多摩キャンパスの魅力発信を目標としていた。

100円モーニングなどの実施により、学生が朝食を共にする機会を得ることができ、交流の場を生み出すことができた。また、地元食材を活用した企画や地域団体との連携を通して、多摩地域の魅力を発信することができた。一方で、企画の多くが短期間で実施され、継続的な取り組みとして問題の根本的な解決につなげるという点では十分とは言えない面もあった。

以上のように、おおむね目標は達成できたものの、継続性という点では課題が残った。

今後の課題点

今年度の活動を通して、地域と学生の交流の機会が十分ではない現状が見受けられた。今後は、学内にとどまらず、地域と連携した企画をより積極的に立案し、地域食材の活用を一層推進していきたいと考える。

また、イベント実施時の広報活動を強化し、参加者や企画規模の拡大を図ることが今後の課題である。



活動の目的

- ①学生の居場所と交流の場づくり。
学生が孤立することなく、互いに支え合いながら学びや成長を深められる
コミュニティの形成。
- ②多摩キャンパスにおける自分のイノベーションの循環。
学生が新しいことに挑戦したり、自分の可能性を広げたりする経験をして、それを次の挑戦や成長へと繋げる流れを作る。

活動で見込める効果

学生同士や地域との交流の機会が増えることで、学生が孤立せず安心して過ごせる環境が生まれる。また、イベントや企画を通して自分の「好き」や「やりたい」に気づくきっかけが生まれ、学生が主体的に挑戦する機会が増える。さらに、その経験や挑戦が他の学生にも影響を与え、新しい挑戦や成長へとつながる循環が生まれることが期待される。

今年度取り組んだ活動

- ・映画上映会
「ズートピア」を通じて、多様な価値観や違いについて考えるきっかけをつくる。
- ・ペットボトルロケット
学生のリサイクル意識や環境への関心を高め、ゴミ削減への貢献を目指す。
- ・佐野川茶コラボ
マイボトル推進・給水機能認知向上を目的に実施。
- ・カラオケ
学生が主体的に楽しめる活動を通じて、自然な交流のきっかけをつくる。
- ・多摩祭（ライブペインティング）
芸術を通して場の雰囲気を活性化し、自然な交流や会話を生むきっかけや新たな価値を発見する体験を提供。

活動の成果

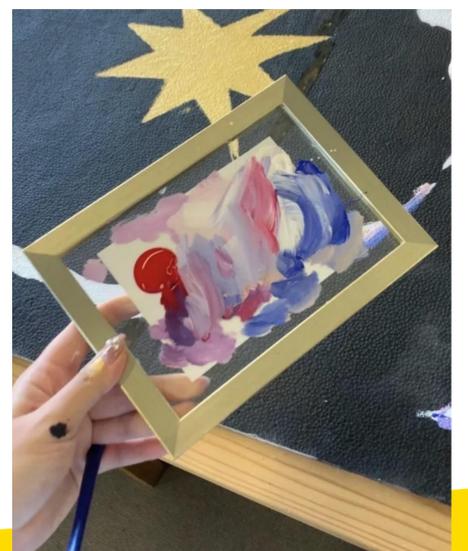
学生が自分の価値観や感覚に気づき、多様性を受け入れる視点を育んだ。
また、学生同士の交流が少ない多摩キャンパスの中で音楽や創作を通して、交流の機会を増やすことができた。
多摩キャンパスの空間を生かした活動をすることができ、学びや気づきのある体験を多く提供することができ、どの活動も来場者を満足させることができた。

目標の達成度

映画上映会やペットボトルロケットのイベントは、参加者・関心ともに目標を達成。カラオケや他の企画は関心を持つ者はいたが、実際の参加は少なく、改善が必要。
活動ごとに差はあるが、全体として学生の主体性や交流は成果があった。

今後の課題点

- 参加率を上げるためにSNS運用やポスター掲示などで活動を知らせる。
- 十分な準備期間を確保し、計画的に取り組むことで、よりスムーズな運営を目指す。
- メンバー間の連携を強化し、情報共有や報連相を徹底することで、負担の偏りを減らす。



HTLプロジェクト



活動の目的

食品ロス問題と生活困窮者支援を同時に解決できる仕組みづくり。

具体的にはコンビニや飲食店の販売期限切れの廃棄商品(消費期限の近い食材)を路上生活者などの生活困窮者に配布したいと考えている。

ボランティア活動への参加や情報収集によって、貧困という大きな社会問題についてメンバー各々が知識を得ることで、より深く自分の考えを持てるようになるのではないかと考える。それを通して、自分たちにできる、また自分たちだからこそできる支援の方法を探っていきたい。

また、学生の貧困問題に目を向け、学生だからこそできる学生への手助けを提案したい。

活動で見込める効果

食品ロス問題へのアプローチ

- 運搬焼却時のCO2削減
- 埋め立て時のメタンガス削減
- 生産流通時のコスト削減

貧困問題へのアプローチ

- 生活困窮者への生活支援



今年度取り組んだ活動

5月

- メンバー集め
- 役職決め
- 方針決め
- プロジェクト参加(はらぺこあおむし - ミライ大作戦2025)
- スープの会参加

6月

- フードドライブイベント開催
- プロジェクト参加(SIVA はらぺこあおむし - 食品ロス削減フェスティバル)

7月

- こども食堂せかい 様へ食品提供
- アンケート集計

10月

- プロジェクト参加(相模原市 - さがみはら大学生等未来応援事業)
- プロジェクト別チーム編成

12月

- 朝ごはん企画開催

活動の成果

SIC内他プロジェクトや外部団体と協力し、目的に掲げる食品ロス問題と生活困窮者支援に貢献できた。

キャンパス内で2度イベントを開催し、こども食堂への食材寄付と大学生の欠食改善を実現した。イベント前のミーティングを活発に行い、綿密な準備を経たことがスムーズな運営に繋がった。

一年を通し、情報共有が盛んに行われ、学生としてのつながりやフットワークを生かした活動となった。

目標の達成度

6月のフードドライブイベントにおいてアンケート調査を実施した。これにより、メンバーが貧困問題とその現状について考えを深め、学生から学生への貧困支援の方針を定め、12月の朝ごはん企画開催に繋げることができた。

目的に掲げた「食品ロス問題と生活困窮者支援を同時に解決できる仕組みづくり」という理想を軸に据え、アイデアはほぼ全て実行できたと言える活動内容であった。

今後の課題点

発足2年目であるためメンバーが少なく、また参加率も低い。リモートミーティング環境の整備や議事録の共有等の工夫やチーム編成による少人数でもプロジェクトを動かすシステム構築などを行ったが、未だ運営に足りうる最低限度の人手確保に苦心している。これは昨年も課題として述べたことであり、解決策もおおむね実行できていたが、さらなる改革が求められる。

イベント開催に向け熟議を重ねられたため、今後は経験を活かす段階へ進み、今年度以上の開催頻度にはできるのではないかと考えられる。



あつまれ緑区プロジェクト



活動の目的

相模原市緑区の区政策課より依頼を受けた区内のPR活動。メンバーが現地へ行き、取材をして、それらを主にプロジェクトのSNSや市のホームページ、広報誌などの紙媒体を通じてPRしていく。

PRのターゲットは、若い世代や子育て世代をメインに絞り、SNSのInstagramやTiktok、市のHPなどを活用して幅広い世代にも知ってもらえるよう工夫していく。

また、緑区内で活動しているプロジェクトの連携、周知も行っていきたい。

活動で見込める効果

メディアを通じた情報発信でより多くの人に自分たちの活動や区の魅力を知ってもらうことで、定住促進や観光への効果が見込める。

さらに学生目線のSNS投稿によって気軽に区のことを知ってもらう。

緑区内で活動するSICの他プロジェクトの活動取材し、広めるなど、他プロジェクトと連携することでSICのつながりを強める。

今年度取り組んだ活動

主に緑区内の様々な魅力について多くの人に知っていただくため、インスタグラムや、tiktokなどの投稿を重視してきました。また、SIC内のほかに緑区で活動しているグループの取材などSIC内の繋がりも深めてまいりました。

- 4月 おおさわ桜祭り
- 5月 緑区内のカフェやレストランなどの投稿
- 6月 城山e-bike体験ツアー
- 7月 カフェやレストランなどの投稿
- 8月 みんなの津久井湖 夏祭り2025
小倉橋灯ろう流し
城山夏まつり2025
相模湖湖上花火大会
- 9月 藤野芸術の家
- 10月 津久井やまびこ祭り
城山もみじまつり
- 11月 小原宿本陣祭
カフェ取材
- 12月 さがみ湖イルミオン

活動の成果

いいねの数が二桁に到達し、また、再生回数なども安定してとれるようになってきている。また、緑区内のイベントだけでなく、緑区内のおしゃれなカフェやレストランの紹介をすることにより、30~40代の家族連れのみをターゲットとせず、10~20代を中心とした若者層にも見てもらえるように工夫をした。実際、30~40代の方々に見ていただけているので、家族で楽しめるようなイベントを紹介することは再生回数にも身を結んでいると思うので、この成果をもとに次年度の引き続き取り組んでまいりたい。

目標の達成度

今年度はインスタ投稿（リール動画含む）は地域に住む30~40代の方々の視聴率が高い結果となった。そのため目標の一つであった子育て世代へのリーチは達成していた。一方で学生（18~20代前半）への視聴は投稿ごとに差があった。

今後の課題点

学生へのリーチ不足が課題である。そのため再度現在の若年層の傾向を分析した上で、関心がある情報および媒体でPR活動を行っていききたい。特に法政大学多摩キャンパスの学生にはこれまでのSNSのみならず、あらゆる選択肢を考え議論していく必要があると考える。

行政ともより情報交換等を、昨年よりさらに綿密に行いながら、進めていきたい。

また他プロジェクトとも連携を行い、今後取材・参加など包括的な取り組みもしていきたい。



活動の目的

多世代交流の機会が減少している城山地域において、その交流機会を創出することを目的として活動している

また、城山地域での活動を通して実際に体感した地域の様々な魅力を、我々が持つ若者ならではの視点で発信していくことを目指している

活動地域：相模原市城山地域
所属人数：67名

活動で見込める効果

1.多世代交流の促進

地域のお年寄りや子どもたちとの交流機会を設けることで、地域全体のつながりを強化できる

2.地域の活性化

地域の魅力を発信することで、より多くの人に城山地域の良さを知ってもらうことができ、地域全体の活性化に繋がる

3.若者の社旗貢献意識の向上

多様な世代にわたる交流を通して、自らの視野を広げることができ、社会問題に対する意識の向上や、新たな発見が得られる

今年度取り組んだ活動

- 5月～7月 広田小学校訪問(継続)、運動会参加
玉ねぎの栽培、収穫
はじまり食堂ミーティング
夏祭り準備(出店者募集、選出、出店者向け説明会、チラシ仕分けなど)
- 6/4 カワラノギクを守る会ミーティング
- 6/7 梅もぎ
- 6/8 e-bikeサイクリングツアー(ガイド参加、アシスタント参加)
- 6/29,7/13 梅ジャムのレシピ作り・ラベル作成
- 7月 夏祭り出店準備(資材購入等)
- 7/4 玉ねぎのスローワールドカフェへの寄付
- 7/6 城山公民館子ども縁日(出店参加)
- 7/26 久保沢納涼大会(出店参加)
- 8/3 高尾山観光ルート開発(城山湖まで)
- 8/11 みんなの津久井湖夏祭り(設営、出店者誘導、かき氷の出店)
- 8/16 小倉橋灯籠流し(設営、かき氷の出店)
- 9月 モルック大会&BBQ(運営参加)
- 10月 高齢者サッカー観戦のお手伝い

もみじ祭りの参加

e-bikeサイクリングツアー(アシスタント)
コスモス園(コスモスの管理手伝い)

11月 はじまり食堂第1回(子ども食堂)
つくい湖上祭(出店参加・設営)
モルック大会(運営参加)

12月 はじまり食堂第2回
サンタdeコンサート(主催イベント、
広田小学校)

活動の成果

今年度は梅ジャムや夏祭り出店等の多岐にわたる地域貢献活動を行いつつ、「はじまり食堂」といった新たなプロジェクトを発進させることもできた

活動全体を通して地域のつながりをより強固なものにし、地域活性化に貢献することができた

目標の達成度

多世代交流の機会を創出するという点においては「はじまり食堂」や「サンタdeコンサート」、その他地域イベントの参加を通してある程度達成できたと言える

しかし城山地域の魅力を発信するという点においては、梅ジャムのレシピ発信等を試みたが十分な成果をあげられなかった

今後の課題点

- ①活動メンバーの固定化と人手不足
⇒団体内の交流機会を増やす
- ②一部プロジェクトの取り組み状況が不透明
⇒団体内での情報伝達手段の検討
- ③地域の魅力発信力の不足
⇒SNS等の情報発信方法の工夫・考案



地域にスポーツの楽しさを広めよう！



SIC
Social Innovation Center

活動の目的

法政大学体育会サッカー部は、一昨年に関東大学サッカーリーグ2部降格を経験しました。弊部の中で原因分析を行い、ピッチ内だけでなく、ピッチ外の取り組みを活性化させる必要があります。昨年SICプロジェクトに参加をしました。チームの目標である「法政に関わるすべての人を笑顔に」という目標を達成するため、地域の方々と協働させていただきながら、様々な取り組みをしています。これまでに、小学校や地域のイベントでサッカー教室を行ってきました。今年度からは行政と協働した観戦ツアーの企画や試合日の魅力度向上に取り組んでいます。

活動で見込める効果

- ・法政大学体育会サッカー部と地域社会（小学校や行政）とのスポーツを通じた関わりが持てる。
- ・弊部の認知度向上とともに、地域の方の運動習慣の形成と新たなコミュニティ創出に寄与。
- ・様々な組織の方と協働し、弊部と他PJにとってのモデルケースを作る。

今年度取り組んだ活動

- 試合日イベントの実施
 - ・マッチデープログラム作成
 - ・会場のライトアップ
 - ・エスコートキッズの募集
 - ・SNSでの試合周知
- 観戦ツアー
 - ・高齢者観戦ツアー
(八王子市高齢者いきいき課、あんしん相談センター館、はちまるサポート)
 - ・学生観戦ツアー
- 周知活動
 - ・チラシ・ステッカーの作成、配布

活動の成果

今年度からの試みであった行政と協働した高齢者観戦ツアーは、29名の方が参加してくださりました。全体としても2025シーズン最多入場者数を記録しました。学生向けの観戦ツアーでも、試合が平日の夜にもかかわらず、多くの多摩キャンパスの学生に参加いただくことができました。

目標の達成度

新たな取り組みの結果として、高齢者など今まで関わりを持てていなかった地域の方との交流を創出できました。一方、活動頻度に関しては課題が残る部分であり、目標達成に向けて来年度は交流機会を増やしていく必要があると考えています。

今後の課題点

目標の達成度にも挙げたように、活動頻度に偏りがあり、年間を通しての活動が十分にできなかったため、来年度からは試合のスケジュールなども含め、より計画的に活動を進めていきたいと考えています。また、PJ内のメンバーが部員だけでなく、ボランティアとして参加してくれている方たちにも協力していただけるような体制を作っていきたいと考えています。



佐野川プロジェクト



活動の目的

佐野川地域は2009年に「にほんの里100選」に選ばれる自然豊かな地域である。しかし近年、過疎化・高齢化に伴う農業従事者の減少により耕作放棄地が拡大し、害獣被害・景観悪化・農業生産性の低下など、地域全体に深刻な影響が生じている。

私たちは、放棄された茶畑の改善と再発防止を図り、将来にわたり耕作放棄地を生まない「持続可能な循環型システム」の構築を目的に活動している。

活動で見込める効果

佐野川の人口は、活動初年度の2014年から現在まで192名減少し、現在660名となっている。しかし学生の参加人数は増加し、今年度は延べ100名が現地を訪問し、地域農家の方々から農業指導を受ける中で整備活動・交流を行った。地域に外部から継続的に人が入ることで、・担い手不足の補完・地域コミュニティの維持・若者が地域に関わる機会・関係人口の創出といった効果が生まれている。

今年度取り組んだ活動

- 4月お茶ピク
- 5月茶畑整備・収穫
- 6月さのさんぽ・茶畑整備
- 7月@団地コラボ・さがチャレ・茶畑整備
- 8月茶畑整備
- 9月館ヶ丘団地 防災フェスティバル
- 10月さがみはら親子ふれあい広場/長野 農業交流合宿/多摩祭
/西八王子ハロウィンイベント/藤野ふるさと祭り
- 11月整備/まちのスコール（城西大学）/相模原SDGs EXPO
町田市市民協働フェスティバルまちカフェ！/農業まつり
- 12月都市政策セミナー（市ヶ谷キャンパス）
- 2月ジェイコム出演
- 3月整備/さがみはら学生祭/百草団地

活動の成果

約12年の継続により、放棄されていた茶畑から収穫できるほどの品質へと再生した。

商品開発初年度:畑の約1/3のみ収穫可能
2025年度現状:継続整備で収穫範囲が拡大
今年度は12イベントに出店し、282袋すべての完売見込みが立っている。
相模原市の助成金を取得したことで、新たに4つ市内のイベントに出展できた。
さらに、神奈川県J:COM番組に出演する機会を得るなど佐野川のお茶という地域資源を周知することができた。

目標の達成度

市ヶ谷キャンパスで都市政策セミナーにて試飲会とPRの機会をいただいたことで、市ヶ谷キャンパスとのつながりの足がかりができた。

今後の課題点

2026年度には茶畑の2/3を収穫可能にする体制整備を目標としている。
さらに、品質向上と生産量の増加に合わせ、販売活動を地域内外に拡大させる。来年度は約400袋の生産・販売体制を整えたいと考えている。
イベントでの一回きりの関係から、この取り組みをより認知してもらうためにもリピーターに繋げていきたい。イベントの臨時出店だけでなく、継続的な販路を模索する。



【活動の目的】

- ・フェアトレード推進
- ・児童労働解決への糸口を見つける
- ・学生のフェアトレードに対する理解向上

【活動で見込める効果】

- ・学生がフェアトレードをより身近に感じ、国際課題や児童労働の問題について理解を深める。
- ・学生にフェアトレード商品を購入する機会を提供する。

【今年度取り組んだ活動】

- ・10月18日
フェアトレードコーヒーの販売(多摩祭)
- ・11月26~28日
Mogooでフェアトレードコーヒーの販売
(SICカフェチームとコラボ)

【今後の課題点】

- ・フェアトレードについて「知ってもらう」段階にとどまったため、継続的な関心や活動に繋げる工夫が足りなかった。

【活動の成果】

- ・3日間で約70杯の売上

【目標の達成度】

- ・カフェチームとのコラボによりフェアトレード商品を気軽に知ってもらう機会を作ることができた。



MoPA(mogoo/Patio運営チーム)



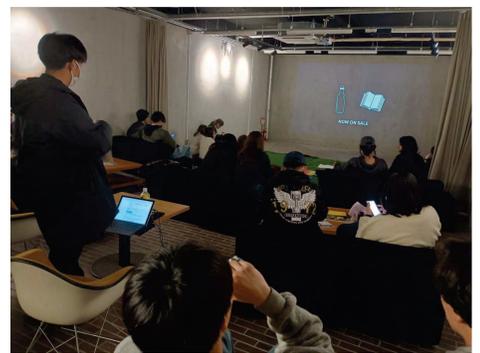
mogoo

法大生の「やりたい！」を形にできる場所として、SICが運営するスペースです。改修は学生たちがDIYで行いました。社会課題解決に向けたアイデア実現に向けた調査や実験に関するイベントを実施できるだけでなく、フリースペースとしても開放されています。



Patio

大学での学びを豊かにするための場所として、SICが運営するスペースです。部屋にはプロジェクターが設置されており、様々な興味関心を持った学生間の交流会やイベント実施など様々な用途で使用することができます。



〈活動の目的〉

“あなたのやってみたい！を形にしませんか？”をコンセプトに学生が“**個人・団体**を問わず”、“**いつからでも**”「**やりたい！**」に向かって活動や交流、実践できる場所として、スペースの貸出やイベントの実施等の活動をしていきます。

- ①学生が持ち込んだ企画を実施
- ②MoPAとして企画を実施
- ③フリースペースとして開放

〈活動で見込める効果〉

- ①学生が自分の考えや、やりたいことを形にする場所を提供できる
⇒**実現可能性**などについての学びを深める
- ②MoPAが企画するイベントを通じて、様々な学生と交流ができる
⇒**交流**の機会の提供
- ③フリースペースとして開放することで、自分にあった使い方ができる場所
⇒学校に“**あなただけの居場所**”を提供

〈今年度取り組んだ活動〉

- 10月**
 - ・mogoo塗装（下地）
 - ・多摩祭出店（屋台：豚汁）
- 11月**
 - ・mogoo塗装（下地）
 - ・家具搬入
 - ・terra・chalfeと共同でカフェ出店
- 12月**
 - ・mogoo塗装（本塗）
 - ・mogoo説明会・内覧会
 - ・鉄道×旅行イベント
 - ・多摩地域形成論でmogooの紹介
 - ・circulationの映画上映（会場：patio）
- 1月**
 - ・mogoo塗装（業者）
 - ・ポスト作成



SIC学生スタッフ



活動の目的

SIC学生スタッフはソーシャルイノベーションセンター(SIC)をフィールドとし、そこで活動している**各プロジェクトの連携促進**と、**SICの学外への周知**を目的として活動している。

また、この目的を達成するために、

- ①**SICの周知不足**
- ②**内外との連携不足**
- ③**プロジェクト間の連携促進**

の3つを課題として、アプローチしている。

活動で見込める効果

【所属人数**450名**・**20プロジェクト**活動】
今年度のSICは上記のような規模にまで拡大した。これは昨年度から学生スタッフが運営する**ホームページによる周知**の影響も大きいだろう。

また、SICの拡大によりプロジェクト同士の**横のつながりが希薄**になってきている。そこで我々の活動によって各プロジェクト同士を繋ぎ、**SIC全体の連携促進**が見込める。

今年度取り組んだ活動

4月 新歓WEEKS

7月 活動地域バスツアー

- ・学生スタッフが実際に各プロジェクトの活動地域へ足を運び、知見を深めた。

8月 オープンキャンパス

8月 JR八王子駅での防災イベント

(ボランティアスタッフさんのお手伝い)

10月 中間報告会

○SICカレンダー

中間報告会で要望を受け、SICに関する動きや活動を月ごとに一覧にしたカレンダーを作成。

○SIC交流会

中間報告会で要望を受け、SICの学生が気軽に参加できる催しを毎月開催

12月 SICクリスマス会

- ・希望者が参加できるクリスマス会を開催

3月 地域交流DAY

- ・設営などの準備、ワークショップを企画(通年を通してホームページやSNSの運営)

活動の成果

今年度はSIC学生スタッフが大きく動いた1年であった。SIC全プロジェクトの所属人数が爆発的に増加したことにより、**プロジェクト間の連携促進**を大きな課題として捉えた。そこで新しく始めた**SICカレンダー**と**SIC交流会**は、これを達成するための大きな一歩になったと考える。また、これらの活動を行うことで他プロジェクトやSIC外の人にとってSICのことはまず学生スタッフに頼ってみよう。という意識を以前より与えられたと感じる。

目標の達成度

今年度の目標達成度は**90%**である。従来の活動に加えてSICカレンダーや、SIC交流会、SICクリスマス会など当初の想像以上に**プロジェクト間へのアプローチ**が行えた。また、バスツアーで地域に赴くことができた。しかし、ホームページの運営に関して動き出しが遅くなったので改善の余地があると考ええる。

今後の課題点

今年度は**SICカレンダー**・**SIC交流会**等、プロジェクト間の連携促進のための土台を作ることができた。今後はこれらを元にさらに各プロジェクトに根ざした活動へと幅を広げていきたい。

また、SICの周知に関して、今年度はあまりアプローチできなかったと感じているため、ホームページ運営の基板作りや、ホームページ以外の学外へのアプローチの仕方を模索し、SIC学生スタッフとしての活動の幅と質を向上させていきたいと考える。

